

「敬語」の指導について

平成十七年度版の教科書では、「敬語」について取り扱う学年が第五学年に移動しました。子どもたちが実際に「敬語」を意識的に使う場面を考え、手紙文を学習するところに位置づけました。

平成十六年度版では、「敬語」の学習は六年生が対象でしたので、本年度の新六年生は、「敬語」について学習する場がないこととなります。

そこで、小社では指導漏れが生じないように、次の措置を考えております。よろしくご配慮くださいますようお願いいたします。

六下第三単元「わたしたちの言葉」(P52～60)

この教材は、ダレン先生というアメリカ人を登場させ、彼とともに、「ふだん気にせずに使っている日本語のさまざまな特性に気づいていく」という内容です。課題をいくつか用意して、実例を集めて考えるようにしてあります。そして、最終的には、意識的な日本語の使い手になってほしいと願うものです。

この中で「敬語」が扱えるように、本文中に次のような課題を加えます。

次の課題に取り組んでみましょう。
日本語には、三種類の敬語があります。身近な会話や文章から、それぞれを見つけてみましょう。
ていねいな言葉づかい
人を敬う気持ちの尊敬語
けんそんして言う謙讓語

このような措置が必要なのは、本年度の六年生のみです。したがって、教科書及び指導書の記述は変更いたしません。学習に必要な児童用の本文と、先生方のための指導用資料を、単元の学習が始まる前にお届けいたします。

なお、左ページに、平成十七年度第五学年の「敬語」の学習材掲げました。右の提案以外の箇所や、独自で指導を考えられる場合などに適宜ご活用いただければ幸いです。

敬語

● 相手（聞き手や読み手）に対して敬意を表すときは、「です」「ます」「ございます」などのていねいな言葉づかいをします。これらの言葉をていねい語といます。

● 相手や話題になっていいる人をうやまう気持ちを表すときは、尊敬語を使います。

ア 特別な言葉を使った言い方。

- ・ いらっしゃる（いる・来る・行く）
- ・ おっしゃる（言う） など。

イ 「お（ご）——になる」という言い方。

- ・ 校長先生がお話しになります。

ウ 「——れる（られる）」という言い方。

- ・ 先生は、もう帰られました。

エ 物事を表す言葉に「お」「や」「ご」を付けた言い方。

- ・ ご卒業おめでとうございます。

● 自分や身内の者の動作をけんそんして言うことによって、その動作を受ける人への敬意を表すときは、けんじよう語を使います。

ア 特別な言葉を使った言い方。

- ・ うかがう（行く・たずねる・聞く）
- ・ いただく（食べる・もらう） など。

イ 「お（ご）——する」という言い方。

- ・ 母がごあいさつします。

この三種類を合わせて、敬語といます。